

鹿屋体育大学学生の教職並びに教育実習に関する意識
—平成7年度教育実習参加学生の場合—

向山 貴仁*, 山崎 利夫*

**Consciousness of teaching profession and student teaching among
the college students at National Institute of Fitness and Sports in Kanoya.**

Takahito MUKOYAMA*, Toshio YAMAZAKI*

Abstract

National Institute of Fitness and Sports in Kanoya (NIFS) was established in 1981. One of the objectives of NIFS is to develop a practical and creative specialists in the area of fitness and sports. Most of the students want to become teachers of physical education. However, only approximately thirty percent of graduates could find jobs as PE teachers in 1994. Currently, considerable data are available as to student teaching at this college.

The purpose of this study was to collect and examine data related to student teaching.

The results of the analysis are summarized as follows:

- ① In terms of future career after graduation, male students ranked teacher in the first place, but female students ranked otherwise.
- ② Most of the students appraised the experience of their student teaching course highly.
- ③ There were hardly any significant differences between the male students and female students in almost all the results of the data obtained.
- ④ There were hardly any significant differences between the students who ranked teacher first and those who did otherwise.

KEY WORDS: *College Student, Student Teaching, Teaching Profession*

1. はじめに

鹿屋体育大学は1981（昭和56）年10月に開学し今年で15年目を迎えた。本学の目的は「体育・スポーツ、レクリエーションに関する理論と実際を教授研究し、もってゆたかな教養と高い学識及び優れた技能を合わせ備えた実践的、創造的な体育指導者を養成するとともに体育・スポーツの深奥

を究め、その進展に寄与すること」である。

本学において取得できる資格の一つとして教育職員免許状（中学校一種免許状、高等学校一種免許状）があり、学校教育における体育指導者としての教員養成も重要な責務の一つとなっている。進路状況においても平成6年度卒業生の31.6%が教職関係に進んでいる。

教育実習は教職に関する科目に位置づけられ、

*鹿屋体育大学 National Institute of Fitness and Sports, Kanoya, Kagoshima, Japan

教員養成における重要な体験学習場面を提供する機会となっている。本学における教育実習は4年次において3週間実施される。毎年、在籍者の6割弱の学生が主として出身校において実習をおこなっている。

本学の教育実習は平成8年度で10回目を迎えるが、教育実習に関する資料並びに実態の把握は十分とはいえない。ゆえに、今後の指導の充実を図るためには実習に関する資料の収集・分析をおこない、実態を明らかにする必要がある。

2. 研究目的

本研究は、鹿屋体育大学における平成7年度の教育実習参加学生を対象として、教職並びに教育実習に関する意識を把握し、教育実習の基礎資料とすることを目的とした。

3. 研究方法

本研究は次のような方法で実施した。

(1) 教育実習参加学生に対する質問紙による調査

平成7年度教育実習参加学生に対する質問項目は大項目として「教育実習の感想」、「授業・見学時数」、「授業実践に伴う活動」、「指導教官による指導」、「教育活動への参加状況」、「実習後に感じた教育実習の目的」、「実習後に感じた教職感」、「進路」の8項目とした。詳細は表-1のとおりである。

調査は教育実習の終了した平成7年9月の事後指導の一回目の授業において実施した。112名を対象に実施したが95名からの回答が得られ、回収率は84.8%であった。

(2) 質問紙の結果並びに考察

質問結果は各質問項目ごとに単純集計をおこない、その結果について分析し考察をおこなった。いくつかの項目では5段階の評定尺度を用い、そのまま得点化したものの、平均値を算出し、男女別と教職志望別でt検定をおこなった。

4. 結果並びに考察

(1) 教育実習参加学生の性別、進路希望別傾向

教育実習参加学生の性別、進路希望別傾向についての結果は表-2-1, 2のとおりであった。男女別に見た進路希望比較では男子は「教職を第一希望」が59.1%、「教職以外を希望」が40.9%で「教職を第一希望」が上回った。また女子では「教職を第一希望」が44.8%、「教職以外を希望」が55.2%で「教職以外を希望」が上回った。

教育実習参加学生全体では「男子の教職を第一希望」が最も多く41.1%、次いで「男子の教職以外の希望」が28.4%、「女子の教職以外を希望」が16.8%、最も少なかったのが「女子の教職を第一希望」の13.7%であった。

(2) 教育実習の感想

教育実習全般の感想についての結果は表-3-1のとおりであった。肯定的回答の多かった順では「教育実習は充実していた」の93.6%、「教育実習は楽しかった」の91.6%、「教育実習は面白かった」の89.5%、であった。一方、「教育実習は短かった」の項目では肯定的回答が49.5%、「教育実習は易しかった」の項目では否定的回答が60.0%であった。

男女別の分析結果は表-3-2のとおりであった。「教育実習は易しかった」の項目において、5%水準で有意差が認められた。つまり、男子は女子よりも教育実習はやさしかったと推定できた。他の項目については有意差は認められなかった。

志望別の分析結果は表-3-3のとおりであった。「教育実習は充実していた」の項目において、5%水準で有意差が認められた。つまり、「教職を第一志望」の者は「教職以外を希望」の者に比べ実習が充実していたと推定できた。他の項目については有意差は認められなかった。

以上の結果から、教育実習の感想については全体的傾向では各項目とも予想以上に肯定的回答の割合が高く、教育実習は充実した経験の場となったことを示した。しかし、教育実習の厳しい側面を示す回答もあった。また、「教育実習は易しかった」の項目で「男子」が、「教育実習は充実していた」の項目で「教職を第一希望」の者がそれぞれ肯定的傾向を示した。

表-1 教育実習に関する質問紙

この調査は、平成7年度における鹿屋体育大学の教育実習参加者の教育実習に関する意識と、実習の実態を把握し今後の事前、事後指導を改善するための基礎資料を得る目的でおこなうものです。下記の質問項目について、あなたの意識や実習校の実態について回答して下さい。

回答は自分の考えに最もあてはまると思われる項目の番号・記号を、一つ〇で囲んで下さい(513は3つ)。(なお本調査は教育実習の評価とは無関係です。)

- (1) クラス・番号：氏名： _____ : _____ : _____
 (2) 所属講座： _____ (3) 所属クラブ： _____
 (4) 実習校： 中学校 _____ 高等学校 _____ 学校名： _____ 県 _____
 (5) 実習期間： 平成7年 _____ 月 _____ 日～ _____ 月 _____ 日 (春期 _____ 秋期 _____)
 (6) 出身校の有無： 出身校 _____ 出身校ではない _____ (7) 公私立： 公立校 _____ 私立校 _____
 (8) 性別： 男子 _____ 女子 _____ (9) 第一希望： 教職志望 _____ 教職以外を希望 _____

1. [教育実習の感想]

5. 全くそのとおりに思う 4. どちらかといえばそう思う 3. どちらともいえない
 2. どちらかといえばそう思わない 1. 全くそう思わない
- | | | | | | |
|------------------|---|---|---|---|---|
| 101. 教育実習は楽しかった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 102. 教育実習は易しかった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 103. 教育実習は充実していた | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 104. 教育実習は面白かった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 105. 教育実習は短かった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 106. 教育実習に満足している | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

2. [授業・見学時数]

1. 0時間 2. 1時間 3. 2時間 4. 3～5時間
 5. 6～8時間 6. 9～11時間 7. 12～14時間 8. 15時間以上
- | | | | | | | | | |
|--------------------------|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 201. あなた自身で行った教科の授業時数 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 202. あなた自身で行った教科以外の授業時数 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 203. 担当教科の先生方が行った授業の見学時数 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 204. 他教科の先生方が行った授業の見学時数 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 205. 担当教科の実習生が行った授業の見学時数 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 206. 他教科の実習生が行った授業の見学時数 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 207. 実習校以外の学校における授業の見学時数 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

3. [授業実践に伴う活動]

5. 非常によくやった 4. ある程度よくやった 3. どちらともいえない
 2. あまりよくできなかった 1. 全くできなかった
- | | | | | | |
|-----------------------|---|---|---|---|---|
| 301. 実習校への1時間前出勤 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 302. 授業開始前の諸準備、生徒への連絡 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 303. 教師としての自覚、姿勢 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 304. 授業における生徒集団の掌握 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 305. 授業における生徒理解 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 306. 授業における説明、話し方 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 307. 授業における示範 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 308. 単元計画、学習指導案の作成 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 309. 毎時間の目標設定、展開の工夫 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 310. 安全への配慮 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 311. 自分自身による授業の反省 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

4. [指導教官による指導]

5. 非常によくおこなわれた 4. ある程度おこなわれた 3. どちらともいえない
 2. あまり良くおこなわれなかった 1. 全くおこなわれなかった
- | | | | | | |
|------------------------|---|---|---|---|---|
| 401. 指導教諭による授業前の指導 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 402. 指導教諭による授業参観 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 403. 指導教諭による授業後の指導 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 404. 指導教諭による実習日誌の点検・指導 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

5. [教育活動への参加状況]

5. 非常によくやった 4. ある程度よくやった 3. どちらともいえない
 2. あまり良くできなかった 1. 全くできなかった
- | | | | | | |
|------------------------|---|---|---|---|---|
| 501. 教科の学習指導 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 502. 試験問題の作成・採点 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 503. 道徳の学習指導 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 504. 学級の時間(ショートホームルーム) | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 505. 学級活動(ロングホームルーム) | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 506. 昼食指導 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 507. 清掃指導 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 508. 501～507以外の生活指導 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

509. 生徒会指導 5 4 3 2 1
 510. クラブ・部活動指導 5 4 3 2 1
 511. 学校行事指導 5 4 3 2 1
 512. 学校運営上のその他の校務 5 4 3 2 1
 513. あと一週間教育実習があったとしたら、どのようなことを学びたいか3つ選んで下さい。
 1. 教科の学習指導 2. 試験問題の作成・採点 3. 道徳の学習指導
 4. 学級の時間(ショートホームルーム) 5. 学級活動(ロングホームルーム)
 6. 昼食指導 7. 清掃指導 8. 41~47以外の生活指導 9. 生徒会指導
 10. クラブ・部活動指導 11. 学校行事指導 12. 学校運営上のその他の校務

514. あなたの実習経験を振り返ってみた場合、(ア)教科の学習指導に関わる活動と(イ)教科学習指導以外に関わる活動との比重は全体としてどのようであったと思いますか。

1. (ア)の比重がとても大きかった。
 2. どちらかといえば(ア)の比重が大きかった。
 3. (ア)の比重と(イ)の比重は半々くらいだった。
 4. どちらかといえば(イ)の比重が大きかった。
 5. (イ)の比重がとても大きかった。

6. [実習後に感じた教育実習の目的]

5. 全くそのとおりに思う 4. どちらかといえばそう思う 3. どちらともいえない
 2. どちらかといえばそう思わない 1. 全くそう思わない

601. 教育実習は、教えることがどういうことかを実際に知るためにある。
 5 4 3 2 1
 602. 教育実習は、将来教師になるための準備や練習としてある。
 5 4 3 2 1
 603. 教育実習は、自分が教師に適しているかどうか知るためにある。
 5 4 3 2 1
 604. 教育実習は、学校教育の実情や問題を知るためにある。
 5 4 3 2 1
 605. 教育実習は、大学で学ぶ教育理論をより確実にし、深めるためにある。
 5 4 3 2 1
 606. 教育実習は、教えるという行為をとおして自分の人間的成長が図られる機会である。
 5 4 3 2 1
 607. 教育実習は、教職志望の確かな者だけが行うようにすべきである。
 5 4 3 2 1
 608. 教育実習は、それを希望する者は誰でも行えるようにすべきである。
 5 4 3 2 1
 609. 教育実習は、教師の仕事というものを広く社会に理解させる働きをもっている。
 5 4 3 2 1

7. [実習後に感じた教職感]

5. 全くそのとおりに思う 4. どちらかといえばそう思う 3. どちらともいえない
 2. どちらかといえばそう思わない 1. 全くそう思わない

701. 教師は、社会的に高い評価を受ける職業である。 5 4 3 2 1
 702. 教師は、経済的に安定した職業である。 5 4 3 2 1
 703. 教師は、やりがい(働きがい)のある職業である。 5 4 3 2 1
 704. 教師は、時間的に余裕のある職業である。 5 4 3 2 1
 705. 教師は、女性にとって恵まれた職業である。 5 4 3 2 1
 706. 教師は、強い責任感を必要とする職業である。 5 4 3 2 1
 707. 教師は、自主的な創意・工夫を必要とする職業である。 5 4 3 2 1
 708. 教師は、継続的な研修を必要とする職業である。 5 4 3 2 1
 709. 教師は、高度な専門知識・技術を必要とする職業である。 5 4 3 2 1
 710. 教師は、幅広い一般教養を必要とする職業である。 5 4 3 2 1
 711. 教師は、豊かな人間性を必要とする職業である。 5 4 3 2 1

8. [進路]

801. 教育実習を行う以前から教職を志望する気持ちが強かったが、実習後はさらにその気持ちが明確になった。
 802. 教育実習を行う以前から教職を志望する気持ちが強かったが、実習後は教職以外の職業を志望しようという気持ちが強くなった。
 803. 教育実習を行う以前から教職を志望する気持ちが強かったが、実習後は大学院に進学しようという気持ちが強くなった。
 804. 教育実習を行う以前から教職を志望する気持ちはそれほど強くなかったが、実習後は教職を希望する気持ちが明確になった。
 805. 教育実習を行う以前から教職を志望する気持ちはそれほど強くなかったが、実習後は教職以外の職業を志望する気持ちが強くなった。
 806. 教育実習を行う以前から教職を志望する気持ちはそれほど強くなかったが、実習後は大学院を希望する気持ちが強くなった。
 807. 教育実習を行う以前から教職を志望する気持ちはそれほど強くなかったが、実習後も教職にするか教職以外の職業にするか大学院に進むかなど、進路を迷うような状態が続いている。

(3) 授業・見学時数

実施した授業・見学時数についての結果は表-4のとおりであった。「実施した教科の授業時数」の項目では「15時間以上」が64.5%と多かった。続いて、「12~14時間」が17.2%、「9~11時間」の10.8%等であった。

「教科以外の授業時間数」の項目では「0時間」が26.1%と最も多かった。しかし、「2時間」の20.7%、「3~5時間」も16.3%であった。実習内容については特別活動関係であろう。

「担当教科の先生が行った授業の見学時数」の項目では「3~5時間」が26.9%、「6~8時間」が21.5%であった。「0時間」は2.2%であった。また、「他教科の先生が行った授業の見学の時数」の項目では「0時間」が31.5%あったが、「3~5時間」も27.2%であった。

「担当教科の実習生が行った授業の見学時数」の項目では「0時間」が35.5%、「3~5時間」が26.9%であった。また、「他教科の実習生の授業見学」の項目では「0時間」が41.3%と多かった。しかし「3~5時間」も20.7%あった。

「実習校以外の学校における授業の見学時数」の項目は「0時間」が97.8%で、ほとんど実施されていないかった。

以上の結果から、授業・見学時数については、6割以上の者が週あたり15時間以上の授業実習をおこなっており、予想以上に時間数が多いと感じている。また、教科以外の学習指導の状況、指導教諭などの授業見学後の授業実習、担当教科以外の授業見学、担当教科並びに他教科の実習生の授業見学の状況についても予想を越えた状況で、良好と評価した。

(4) 授業実践に伴う活動

授業実践に伴う活動についての結果は表-5-1のとおりであった。「授業開始前の諸準備、生徒への連絡」、「実習校への一時間前出勤」、「教師としての自覚、姿勢」の項目では肯定的回答がそれぞれ88.5%、87.3%、72.6%と高かった。

一方、「授業における生徒集団の掌握」、「授業における生徒理解」、「授業における示範」、「授業

における説明、話し方」等の項目においては肯定的回答の割合が低かった。また、「毎時間の目標設定、展開の工夫」の項目においても肯定的回答が53.7%と低かった。「安全への配慮」、「自分自身による授業の反省」の項目は良好と評価できた。

男女別の分析結果は表-5-2のとおりであったが、すべての項目において有意差は認められず「授業実践に伴う活動」における男女間の差は認められなかった。

志望別の分析結果は表-5-3のとおりであった。「授業における生徒理解」の項目において、5%水準で有意差が認められた。つまり、「教職以外を希望」の者は「教職を第一希望」の者に比べ生徒理解をよくやったと推定できた。他の項目については有意差は認められなかった。

以上の結果から、授業実践に伴う活動については、「出勤状況」、「授業への事前準備」、「教師としての姿勢」とも前向きな姿勢や意欲が伺われる良好な状況であった。一方、「毎時間の目標設定、展開の工夫」等の「授業設計」や「実践場面における指導」に関しては十分とは言えない結果となった。しかし、教職における指導は経験の積み重ねも必要であり、全体としては良好な状況と評価した。

問題点としては、本学の学生は実習以前において「教育実習に対する不安な点」として人前で話したり、主張したり、説明したりすること等、「話し方」に関することを挙げる者が多い。実習をとおして「話すこと」に自信をつける者もいるが、半数近くが否定的回答を示した点は今後の課題となった。また、「授業における生徒理解」の項目において、「教職以外を希望」の者が肯定的傾向を示した点も検討を要する。

(5) 指導教官による指導

指導教官による指導についての結果は表-6のとおりであった。各項目における肯定的回答は「指導教諭による授業前の指導」が83.2%、「指導教諭による授業参観」が89.4%、「指導教諭による授業後の指導」が93.7%、「指導教諭による

表2-1 男女別でみた教育実習の希望

	第一希望	第二希望
男子	39人 (59.1%)	27 (40.9%)
女子	13 (44.8%)	16 (55.2%)
合計	52 (54.8%)	43 (45.2%)

※%は横方向で見る。

表2-2 教育実習の希望

	第一希望	第二希望
男子	39人 (41.1%)	27 (28.4%)
女子	13 (13.7%)	16 (16.8%)
合計	52 (54.8%)	43 (45.2%)

※%は全体での割合を表す。

表3-1 教育実習の感想

	全くそう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらとも 言えない	どちらかといえ ばそう思わない	全くそう 思わない
教育実習は楽しかった	45 (47.4%)	42 (44.2%)	6 (6.3%)	2 (2.1%)	0 (0.0%)
教育実習は易しかった	2 (2.1%)	15 (15.8%)	21 (22.1%)	29 (30.5%)	28 (29.5%)
教育実習は充実していた	56 (58.9%)	33 (34.7%)	5 (5.3%)	1 (1.1%)	0 (0.0%)
教育実習は面白かった	40 (42.1%)	45 (47.4%)	7 (7.4%)	3 (3.2%)	0 (0.0%)
教育実習は短かった	19 (20.3%)	28 (29.8%)	36 (38.1%)	10 (10.6%)	1 (1.2%)
教育実習に満足している	43 (45.3%)	38 (40.0%)	10 (10.5%)	4 (4.2%)	0 (0.0%)

※%は横方向で見る

表3-2 教育実習の感想 (男女別平均)

	男子	女子	t値
教育実習は楽しかった	4.41 (n=66)	4.28 (n=29)	0.85
教育実習は易しかった	2.45 (n=66)	1.96 (n=29)	2.00*
教育実習は充実していた	4.50 (n=66)	4.55 (n=29)	-0.36
教育実習は面白かった	4.26 (n=66)	4.34 (n=29)	-0.53
教育実習は短かった	3.73 (n=66)	3.41 (n=29)	1.27
教育実習に満足している	4.27 (n=66)	4.24 (n=29)	0.17

*P<0.05

表3-3 教育実習の感想 (志望別平均)

	第一志望	第二志望	t値
教育実習は楽しかった	4.44	4.28	1.13
教育実習は易しかった	2.31	2.30	0.02
教育実習は充実していた	4.63	4.37	2.00*
教育実習は面白かった	4.37	4.19	1.18
教育実習は短かった	3.69	3.56	0.58
教育実習に満足している	4.33	4.19	0.84

*P<0.05

表-4 授業・見学時数

	0h	1h	2h	3・5h	6-8h	9-11h	12-14h	15h以上
自分自身で行った教科授業時数	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	7(7.5%)	10(10.8%)	16(17.2%)	60(64.5%)
自分自身で行った教科以外の授業時数	24(26.1%)	14(15.2%)	19(20.7%)	15(16.3%)	10(10.9%)	3(3.3%)	1(1.1%)	6(6.5%)
担当教科の先生が行った授業の見学時数	2(2.2%)	2(2.2%)	7(7.5%)	25(26.9%)	20(21.5%)	15(16.1%)	7(7.5%)	15(16.1%)
他教科の先生が行った授業の見学時数	29(31.5%)	13(14.1%)	18(19.6%)	25(27.2%)	7(7.6%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
担当教科の実習生が行った授業の見学時数	33(35.5%)	7(7.5%)	18(19.4%)	25(26.9%)	6(6.5%)	2(2.2%)	2(2.2%)	0(0.0%)
他教科の実習生が行った授業の見学時数	38(41.3%)	16(17.4%)	19(20.7%)	15(16.3%)	3(3.3%)	1(1.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)
実習校以外の学校での授業の見学時数	91(95.8%)	1(1.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(1.1%)	0(0.0%)

※%は横方向で見える

表-5-1 授業実践に伴う活動

	非常によく やった	ある程度よ くやった	どちらとも 言えない	あまりよくで きなかった	全くできな かった
実習校へ1時間前に出勤	67(70.5%)	16(16.8%)	6(6.3%)	3(3.2%)	3(3.2%)
授業開始前の諸準備・生徒への連絡	24(25.3%)	60(63.2%)	6(6.3%)	5(5.3%)	0(0.0%)
教師としての自覚・姿勢	16(16.8%)	53(55.8%)	17(17.9%)	8(8.4%)	1(1.1%)
授業における生徒集団の掌握	9(9.5%)	48(50.5%)	30(31.6%)	7(7.4%)	1(1.1%)
授業における生徒理解	9(9.5%)	48(50.5%)	29(30.5%)	8(8.4%)	1(1.1%)
授業における説明・話し方	5(5.3%)	47(49.5%)	27(28.4%)	16(16.8%)	0(0.0%)
授業における示範	5(5.3%)	48(50.5%)	29(30.5%)	13(13.7%)	0(0.0%)
単元計画, 学習指導案の作成	25(26.3%)	39(41.1%)	21(22.1%)	9(9.5%)	1(1.1%)
毎時間の目標設定, 展開の工夫	10(10.5%)	41(43.2%)	31(32.6%)	13(13.7%)	0(0.0%)
安全への配慮	14(14.7%)	56(58.9%)	17(17.9%)	8(8.4%)	0(0.0%)
自分自身による授業の反省	20(21.1%)	57(60.0%)	12(12.6%)	6(6.3%)	0(0.0%)

※%は横方向で見える

実習日誌の点検・指導」が80.0%であった。各項目とも肯定的回答の割合が非常に高く、指導教諭の充実した指導姿勢を示す結果が得られた。

(6) 教育活動への参加状況

教育活動への参加状況についての結果は表-7-1のとおりであった。各項目において、肯定的回答が多かった項目は「教科の学習指導」90.0%、「学級の時間(ショートホームルーム)」90.5%、続いて「清掃指導」、「クラブ・部活動指導」、「学校行事指導」であった。一方、否定的回答が多かった項目は「生徒会指導」80.0%が最も多く、以下「昼食指導」、「試験問題の作成」、「道徳の学習指導(但し、高校にはない)」、「校務」、「生活指導」であった。

男女別の分析結果は表-7-2のとおりであっ

た。「試験問題の作成・採点」の項目において、1%水準で有意差が認められた。つまり、女子の方が男子よりも「試験問題の作成・採点」をよくやったと推定できた。他の項目については有意差は認められなかった。

志望別の分析結果は表-7-3のとおりであった。「教科の学習指導」の項目において、5%水準で有意差が認められた。つまり、「教職以外を希望」の者の方が「教職を第一希望」の者に比べ「教科の学習指導」をよくやったと推定できた。他の項目については有意差は認められなかった。

「あと一週間教育実習があった場合の実習内容」の質問に対しては、肯定的回答の多い順では、「学級活動(ロングホームルーム)」53.4%、「クラブ・部活動指導」50.6%、「教科の学習指導」46.3%、「学校行事指導」36.3%、「道徳の指

表-5-2 授業実践に伴う活動 (男女別平均)

	男子	女子	t値
実習校へ1時間前に出勤	4.50	4.45	0.24
授業開始前の諸準備・生徒への連絡	4.05	4.17	-0.79
教師としての自覚・姿勢	3.83	3.69	0.75
授業における生徒集団の掌握	3.62	3.55	0.39
授業における生徒理解	3.62	3.51	0.57
授業における説明・話し方	3.53	3.21	1.76
授業における示範	3.50	3.41	0.48
単元計画, 学習指導案の作成	3.73	4.03	-1.43
毎時間の目標設定, 展開の工夫	3.44	3.66	-1.13
安全への配慮	3.82	3.76	0.34
自分自身による授業の反省	3.94	4.00	-0.35

表-5-3 授業実践に伴う活動 (志望別平均)

	第一志望	第二志望	t値
実習校へ1時間前に出勤	4.52	4.44	0.38
授業開始前の諸準備・生徒への連絡	4.17	3.98	1.32
教師としての自覚・姿勢	3.81	3.77	0.23
授業における生徒集団の掌握	3.62	3.58	0.20
授業における生徒理解	3.42	3.79	-2.22*
授業における説明・話し方	3.33	3.56	-1.35
授業における示範	3.54	3.40	0.87
単元計画, 学習指導案の作成	3.85	3.79	0.28
毎時間の目標設定, 展開の工夫	3.50	3.51	-0.07
安全への配慮	3.83	3.77	0.36
自分自身による授業の反省	3.92	4.00	-0.48

*P < 0.05

表-6 指導教官による指導

	非常によく 行われた	ある程度行わ れた	どちらとも 言えない	あまりよく行 われなかった	全く行われ なかった
指導教諭による授業前の指導	38 (40.0%)	41 (43.2%)	9 (9.5%)	6 (6.3%)	1 (1.1%)
指導教諭による授業参観	50 (52.6%)	35 (36.8%)	7 (7.4%)	3 (3.2%)	0 (0.0%)
指導教諭による授業後の指導	57 (60.0%)	32 (33.7%)	2 (2.1%)	4 (4.2%)	0 (0.0%)
指導教諭による実習日誌の点検指導	21 (22.1%)	55 (57.9%)	15 (15.8%)	4 (4.2%)	0 (0.0%)

※%は横方向で見る

導」30.4%で領域別では特別活動領域の内容が高い割合を占めた。

教育実習における「教科の学習指導に関わる活動」と「教科学習指導以外に関わる活動」との比重についての項目では、「教科の学習指導に関わる活動」に対する肯定的回答が68.1%、「教科学習指導以外に関わる活動」に対する肯定的回答が10.7%で「教科の学習指導に関わる活動」の比重がかなり高い結果となった。

以上の結果から、教育活動への参加状況は、「教科の学習指導に関わる活動」への参加、比重が高かったが、一般的傾向と考察した。しかし、「教科の学習指導」の項目において、「教職以外を希望」の者の積極性がみられた結果は今後の検討課題となった。

(7) 実習後に感じた教育実習の目的

教育実習後に感じた教育実習の目的についての結果は表-8-1のとおりであった。肯定的回答の高かった順では「教育実習は、教えるという行為をとおして自分の人間的成長が図られる機会である」の89.4%、「教育実習は、教えるということがどういうことかを実際に知るためにある」の85.2%、「教育実習は、将来教師になるための準備や練習としてある」の67.4%、「教育実習は、自分が教師に適しているかどうか知るためにある」の64.2%、「教育実習は、学校教育の実情や問題を知るためにある」の64.2%、「教育実習は大学で学ぶ教育理論をより確実にし、深めるためにある」の55.7%であった。

男女別の分析結果は表-8-2のとおりであった。「教育実習は大学で学ぶ教育理論をより確実にし、深めるためにある」の項目において、5%水準で有意差が認められた。つまり、女子の方が男子よりも「教育実習を、大学で学んだ教育理論を深める場」であることにより強く同意していると推定できる。他の項目については有意差は認められなかった。

志望別の分析結果は表-8-3のとおりであった。「教育実習は、教職希望の確かな者だけが行うようにすべきである」の項目において、1%水

準で有意差が認められた。つまり、「教職を第一希望」の者の方がこの項目により強く同意していると推測できた。他の項目については有意差は認められなかった。

以上の結果から、実習後に感じた教育実習の目的については、全体的傾向では実習後の学生は教育実習を「人間的成長」、「広く教育の実際を知る」などの経験的機会や視野の拡大場面として捉えている傾向が強く伺われた。

しかし、「教育実習は大学で学ぶ教育理論をより確実にし、深めるためにある」の項目における「女子」の意識と、「教育実習は、それを希望する者は誰でも行えるようにすべきである」の項目における「教職を第一希望」としている者の肯定的意識は「教育職員免許資格取得のみを目的とした学生」に対する指導課題と感じた。

(8) 実習後に感じた教職感

教育実習後に感じた教職感についての結果は表-9-1のとおりであった。肯定的回答の高かった順では「教師は、豊かな人間性を必要とする職業である」の95.8%、「教師は、やりがい(働きがい)のある職業である」の95.8%、「教師は、強い責任感を必要とする職業である」の95.7%、「教師は、自主的な創意・工夫を必要とする職業である」の93.7%であった。

男女別の分析結果は表-9-2のとおりであった。「教師は、強い責任感を必要とする職業である」の項目において、5%水準で有意差が認められた。つまり、女子の方が男子よりも実習を終えて、より強く同意していると推定できた。他の項目については有意差は認められなかった。

志望別の分析結果は表-9-3のとおりであった。「教師は、時間的に余裕のある職業である」と「教師は、強い責任感を必要とする職業である」の項目において、5%水準で有意差が認められた。つまり、前者の項目には「教職以外を希望」の者が、また後者の項目には「教職を第一希望」の者がより強く同意していると推測できる。他の項目については有意差は認められなかった。

以上の結果から、実習後に感じた教職感につい

表-7-1 教育活動への参加状況

	非常に くやった	ある程度よく やった	どちらとも 言えない	あまりよくで きなかった	全くできな かった
教科の学習指導	21 (22.1%)	55 (57.9%)	15 (15.8%)	4 (4.2%)	0 (0.0%)
試験問題の作成採点	0 (0.0%)	13 (13.7%)	17 (17.9%)	9 (9.5%)	56 (58.9%)
道徳の学習指導	3 (3.2%)	15 (16.0%)	27 (28.7%)	7 (7.4%)	42 (44.7%)
学級の時間 (ショートホームルーム)	42 (44.2%)	44 (46.3%)	6 (6.3%)	2 (2.1%)	1 (1.1%)
学級活動 (ロングホームルーム)	15 (15.8%)	37 (38.9%)	23 (24.2%)	5 (5.3%)	15 (15.8%)
昼食指導	14 (14.7%)	6 (6.3%)	19 (20.0%)	6 (6.3%)	50 (52.6%)
清掃指導	44 (46.3%)	36 (37.9%)	7 (7.4%)	6 (6.3%)	2 (2.1%)
501~507以外の生活指導	6 (6.5%)	17 (18.3%)	40 (43.0%)	16 (17.2%)	14 (15.1%)
生徒会指導	0 (0.0%)	2 (2.1%)	17 (17.9%)	12 (12.6%)	64 (67.4%)
クラブ・部活動指導	51 (53.7%)	25 (26.3%)	9 (9.5%)	8 (8.4%)	2 (2.1%)
学校行事指導	12 (12.6%)	29 (30.5%)	27 (28.4%)	13 (13.7%)	14 (14.7%)
学校運営上のその他の校務	5 (5.3%)	10 (10.5%)	36 (37.9%)	16 (16.8%)	28 (29.5%)

※%は横方向で見る

表-7-2 教育活動への参加状況 (男女別平均)

	男子	女子	t値
教科の学習指導	3.99	3.97	0.12
試験問題の作成採点	1.61	2.45	-3.49**
道徳の学習指導	2.12	2.57	-1.59
学級の時間 (ショートホームルーム)	4.29	4.34	-0.33
学級活動 (ロングホームルーム)	3.38	3.24	0.48
昼食指導	2.11	2.55	-1.33
清掃指導	4.17	4.28	-0.50
501~507以外の生活指導	2.86	2.79	0.30
生徒会指導	1.48	1.69	-1.07
クラブ・部活動指導	4.33	3.93	1.72
学校行事指導	3.14	3.10	0.12
学校運営上のその他の校務	2.41	2.55	-0.54

**P < 0.01

表-7-3 教育活動への参加状況 (志望別平均)

	第一志望	第二志望	t値
教科の学習指導	3.81	4.19	-2.54*
試験問題の作成採点	1.67	2.09	-1.80
道徳の学習指導	2.16	2.37	-0.82
学級の時間 (ショートホームルーム)	4.37	4.23	0.83
学級活動 (ロングホームルーム)	3.42	3.23	0.73
昼食指導	2.08	2.44	-1.18
清掃指導	4.17	4.23	-0.29
501~507以外の生活指導	2.92	2.74	0.80
生徒会指導	1.44	1.67	-1.31
クラブ・部活動指導	4.29	4.11	0.79
学校行事指導	3.08	3.19	-0.43
学校運営上のその他の校務	2.56	2.33	0.96

* P < 0.05

表-7-4 あと1週間があった場合学びたいこと

項 目	回答数 (%)
学級活動 (ロングホームルーム)	49(53.4%)
クラブ・部活動	46(50.6%)
教科の学習指導	44(46.3%)
学校行事指導	33(36.3%)
道徳の学習指導	28(30.4%)
試験問題の作成・採点	23(24.4%)
学校運営上のその他の校務	21(23.1%)
学級の時間 (ショートホームルーム)	14(15.1%)
501~507以外の生活指導	8(8.4%)
昼食指導	6(6.3%)
生徒会指導	4(4.2%)
清掃指導	1(1.1%)

表-7-5 教科学習指導に関わる活動とそれ以外に関わる活動の比重

項 目	回答数 (%)
教科学習指導に関わる活動の比重がとて大きかった	34(36.2%)
どちらかと言えば教科学習指導に関わる活動の比重が大きかった	30(31.9%)
教科学習指導に関わる活動とそれ以外に関わる活動の比重は半々	20(21.3%)
どちらかと言えばそれ以外に関わる活動の比重が大きかった	6(6.4%)
それ以外に関わる活動の比重がとて大きかった	4(4.3%)

表-8-1 実習後に感じた教育実習の目的

	全くそう思 う	どちらかといえ ばそう思わない	どちらとも言 えない	どちらかと言え ばそう思わない	全くそう思 わない
教育実習は、教えることがどういうことかを実際に知るためにある	44(46.3%)	37(38.9%)	10(10.5%)	4(4.2%)	0(0.0%)
教育実習は、将来教師になるための準備や練習としてある	23(24.2%)	41(43.2%)	26(27.4%)	4(4.2%)	1(1.1%)
教育実習は、自分か教師に適しているかどうか知るためにある	15(15.8%)	46(48.4%)	25(26.3%)	9(9.5%)	0(0.0%)
教育実習は、学校教育の実情や問題を知るためにある	19(20.0%)	42(44.2%)	28(29.5%)	5(5.3%)	1(1.1%)
教育実習は、大学で学ぶ教育理論をより確実にし深めるためにある	18(18.9%)	35(36.8%)	27(28.4%)	15(15.8%)	0(0.0%)
教育実習は、教えるという行為を通して自分の人間的成長が図られる機会である	50(52.6%)	35(36.8%)	8(8.4%)	2(2.1%)	0(0.0%)
教育実習は、教職志望の確かな者だけが行うようにすべきである	6(6.3%)	15(15.8%)	30(31.6%)	27(28.4%)	17(17.9%)
教育実習は、それを志望する者は誰でも行えるようにすべきである	13(13.7%)	30(31.6%)	21(22.1%)	21(22.1%)	10(10.5%)
教育実習は、教師の仕事というものを広く社会に理解させる働きを持っている	16(16.8%)	32(33.7%)	37(38.9%)	7(7.4%)	3(3.2%)

※%は横方向で見る

表-8-2 実習後に感じた教育実習の目的(男女別平均)

	男子	女子	t値
教育実習は、教えることがどういうことかを実際に知るためにある	4.29	4.24	-0.25
教育実習は、将来教師になるための準備や練習としてある	3.92	3.69	1.21
教育実習は、自分が教師に適しているかどうか知るためにある	3.67	3.79	-0.67
教育実習は、学校教育の実情や問題を知るためにある	3.67	4.00	-1.74
教育実習は、大学で学ぶ教育理論をより確実にし、深めるためにある	3.39	4.03	-3.09
教育実習は、教えるという行為を通して自分の人間的成長が図られる機会である	4.33	4.55	-1.34
教育実習は、教職志望の確かな者だけが行うようにすべきである	2.70	2.52	0.71
教育実習は、それを志望する者は誰でも行えるようにすべきである	3.14	3.21	-0.26
3教育実習は、教師の仕事というものを広く社会に理解させる働きを持っている	3.45	3.72	-1.26
			P<0.05

表-8-3 実習後に感じた教育実習の目的(志望別平均)

	第一志望	第二志望	t値
教育実習は、教えることがどういうことかを実際に知るためにある	4.33	4.21	0.70
教育実習は、将来教師になるための準備や練習としてある	4.00	3.67	1.83
教育実習は、自分が教師に適しているかどうか知るためにある	3.75	3.65	0.56
教育実習は、学校教育の実情や問題を知るためにある	3.69	3.86	-0.94
教育実習は、大学で学ぶ教育理論をより確実にし深めるためにある	3.44	6.77	-1.64
教育実習は、教えるという行為を通して自分の人間的成長が図られる機会である	4.38	4.41	-0.22
教育実習は、教職志望の確かな者だけが行うようにすべきである	2.96	2.26	3.15**
教育実習は、それを志望する者は誰でも行えるようにすべきである	3.00	3.35	-1.39

** P<0.01

表-9-1 実習後に感じた教職感

	全くそう思 う	どちらかといえ ばそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと言え ばそう思わない	全くそう 思わない
教師は、社会的に高い評価を受ける職業である	22(23.3%)	43(45.3%)	23(24.2%)	7(7.4%)	0(0.0%)
教師は、経済的に安定した職業である	25(26.3%)	51(53.7%)	14(14.7%)	5(5.3%)	0(0.0%)
教師は、やりがい(働きがい)のあり職業である	70(74.7%)	20(21.1%)	4(4.2%)	0(0.0%)	0(0.0%)
教師は、時間的に余裕のある職業である	7(7.4%)	12(12.6%)	28(29.5%)	25(24.2%)	23(24.2%)
教師は、女性にとって恵まれた職業である	11(11.6%)	20(21.1%)	49(51.6%)	11(11.6%)	4(4.2%)
教師は、強い責任感を必要とする職業である	73(76.8%)	18(18.9%)	4(4.2%)	0(0.0%)	0(0.0%)
教師は、自主的な創意工夫が必要な職業である	62(65.3%)	27(28.4%)	4(4.2%)	2(2.1%)	0(0.0%)
教師は、継続的な研修を必要とする職業である	38(40.0%)	43(45.3%)	11(11.6%)	3(3.2%)	0(0.0%)
教師は、高度な専門知識・技術を必要とする職業である	33(34.7%)	43(45.3%)	13(13.7%)	5(5.3%)	1(1.1%)
教師は、幅広い一般教養を必要とする職業だ	42(44.2%)	36(37.9%)	15(15.8%)	2(2.1%)	0(0.0%)
教師は、豊かな人間性を必要とする職業だ	74(77.9%)	17(17.9%)	4(4.2%)	0(0.0%)	0(0.0%)

※%は横方向で見る

表-9-2 実習後に感じた教職感 (男女別平均)

	男子	女子	t値
教師は、社会的に高い評価を受ける職業である	3.89	3.72	0.88
教師は、経済的に安定した職業である	3.97	4.10	-0.76
教師は、やりがい(働きがい)のあり職業である	4.70	4.72	-0.22
教師は、時間的に余裕のある職業である	2.59	2.38	0.79
教師は、女性にとって恵まれた職業である	3.22	3.27	-0.23
教師は、強い責任感を必要とする職業である	4.65	4.90	-2.09*
教師は、自主的な創意工夫が必要な職業である	4.51	4.69	-1.16
教師は、継続的な研修を必要とする職業である	4.18	4.31	-0.74
教師は、高度な専門知識・技術を必要とする職業である	4.08	4.07	0.03
教師は、幅広い一般教養を必要とする職業である	4.15	4.45	-1.69
教師は、豊かな人間性を必要とする職業である	4.70	4.83	-1.11

*P<0.05

表-9-3 実習後に感じた教職感 (志望別平均)

	第一志望	第二志望	t値
教師は、社会的に高い評価を受ける職業である	3.88	3.79	0.52
教師は、経済的に安定した職業である	4.10	3.91	1.16
教師は、やりがい(働きがい)のあり職業である	4.77	4.63	1.27
教師は、時間的に余裕のある職業である	2.27	2.84	-2.35
教師は、女性にとって恵まれた職業である	3.25	3.23	0.09
教師は、強い責任感を必要とする職業である	4.85	4.58	2.47*
教師は、自主的な創意工夫が必要な職業である	4.58	4.56	0.13
教師は、継続的な研修を必要とする職業である	4.13	4.33	-1.20
教師は、高度な専門知識・技術を必要とする職業である	4.04	4.12	-0.42
教師は、幅広い一般教養を必要とする職業である	4.23	4.26	-0.15
教師は、豊かな人間性を必要とする職業である	4.49	4.67	1.04

*P<0.05

表-10 教育実習後の学生の進路意識

項 目	人数 (%)
実習実習以前から教職志望で、実習後は更にその意志を強くした	33(35.9%)
実習以前から教職志望だったが、実習後は教職以外の職業を希望	7(7.6%)
実習以前から教職志望だったが、実習後は大学院を希望	1(1.1%)
実習以前から教職志望はそれほど強くなかったが、実習後は教職希望が明確に	14(15.2%)
実習以前から教職志望はそれほど強くなかったが、実習後は教職以外の職業を希望	19(20.7%)
実習以前から教職志望はそれほど強くなかったが、実習後は大学院を希望	2(2.2%)
実習以前から教職志望はそれほど強くなかったが、実習後も進路希望を迷っている	16(17.4%)

ては、全項目とも肯定的回答が高い割合を占め、実習後の教職に対する高い意識が示された。なかでも、「教師は、強い責任感を必要とする職業である」の項目における「女子」の意識、「教師は、時間的に余裕のある職業である」の項目における「教職以外を希望」の者の意識、「教師は、強い責任感を必要とする職業である」の項目における「教職を第一希望」の者の意識が肯定的に回答され顕著な傾向であった。

(9) 進路

教育実習後の学生の進路についての意識は表-10のとおりであった。肯定的回答の高かった順では「教育実習以前から教職希望で、実習後更にその意志を強くした」35.9%、「教育実習以前は教職以外を希望していたが、実習後は教職を希望」15.2%で51.5%の学生が教育実習後教職への進路を考え、進路に対する実習の影響がうかがわれた。しかし、「教育実習以前から教職以外を希望し、実習後も教職以外を希望」の学生も20.7%みられた。

6. ま と め

鹿屋体育大学における平成7年度教育実習参加学生に対する質問の結果並びに考察は、次のようにまとめられた。

[全体的傾向]

教育実習参加学生の性別、進路希望別傾向については、男子では「教職を第一希望」が多く、女子では「教職以外を希望」が多かった。「教職を

第一希望」の内訳では男子が女子の3倍で、「教職以外を希望」の内訳では男子が女子の1.5倍であった。

参加学生全体の進路希望別では「男子の教職希望」が最も多く4割以上を占め、最も少なかったのが「女子の教職希望」であった。

教育実習全般の感想については、各項目とも予想以上に肯定的回答の割合が非常に高く、教育実習は充実した経験の場となったことを示した。しかし教育実習の厳しい側面を示す結果も示された。

実施した授業・見学時数についても予想を上回る授業実習をおこなっていた。また、「教科以外の授業時間」の項目でも7割以上が何らかの指導をおこなっていた。見学については「担当教科の先生の授業見学」、「他教科の先生の授業見学」、「担当教科の他の実習生の授業見学」及び「担当教科以外の他の実習生の授業見学」とも良好な状況が把握できた。しかし、「実習校以外の学校における授業の見学時数」の項目は「0時間」が97.8%で、ほとんど実施されていなかった。

授業実践に伴う活動については、教師としての自覚や積極性を持った姿勢、態度で取り組む状況が伺われた。しかし、授業設計や実践場面における状況は難しい結果となった。全体としては良好な状況と評価した。

指導教官による指導については、肯定的回答の割合が非常に高く、指導教諭の充実した指導姿勢を示す結果が得られた。

教育活動への参加状況については「教科の学習

指導に関わる活動」への参加, 比重が中心であった。「生徒会指導」等への参加は不足し, 「あと一週間教育実習があった場合の実習内容」の質問に対しては, 領域別では特別活動関連の内容が高い割合を占めた。

教育実習後に感じた教育実習の目的については教育実習を「人間的成長」, 「広く教育の実際を知る」などの経験的機会や視野の拡大場面として捉えている傾向が強伺われた。しかし, 教育実習の参加資格については「教育実習は, それを希望する者は誰でも行えるようにすべきである」の項目の肯定的回答は5割に満たず, 慎重な姿勢も伺えた。

教育実習後に感じた教職感については, 各項目とも肯定的回答が高い割合を占め, 実習後の教職に対する高い意識を示した。

教育実習後の学生の進路についての意識は, 進路に対する実習の影響が伺われた者が5割近くいた。しかし, 影響されなかった学生も2割みられた。

[男女別傾向]

質問結果の男女別傾向において, ほとんどの項目に有意差が認められなかった。有意差が認められたのは以下の4項目であった。これらの項目間には関連性や顕著な回答傾向はみられないのではないかと考察した。

- 1) 「教育実習における感想」の「教育実習は易しかった」の項目において「男子」の積極性を示す傾向がみられた。
- 2) 「教育活動への参加状況」の「試験問題の作成・採点」の項目において「女子」の積極性を示す傾向がみられた。
- 3) 「実習後に感じた教育実習の目的」の「教育実習は大学で学ぶ教育理論をより確実にし, 深めるためにある」の項目において, 「女子」の積極性を示す傾向がみられた。
- 4) 「実習後に感じた教職感」の「教師は, 強い責任感を必要とする職業である」の項目において, 「女子」の積極性を示す傾向がみられた。

[志望別傾向]

質問結果の志望別傾向においても, ほとんどの項目に有意差が認められなかった。有意差が認められたのは以下の4項目であった。これらの項目のうち2と3において, 教育実習における「教職以外を希望」する者の積極性を示す関連性が認められた。

- 1) 「教育実習における感想」の「教育実習は充実していた」の項目において, 「教職を第一希望」の者の積極性を示す傾向がみられた。
- 2) 「授業実践に伴う活動」の「授業における生徒理解」の項目において, 「教職以外を希望」の者の積極性を示す傾向がみられた。
- 3) 「教育活動への参加状況」の「教科の学習指導」の項目において, 「教職以外を希望」の者の積極性を示す傾向がみられた。
- 4) 「実習後に感じた教職感」の「教師は, 時間的に余裕のある職業である」の項目において, 「教職以外を希望」の者の否定的傾向がみられた。また, 「教師は, 強い責任感を必要とする職業である」の項目において, 「教職を第一希望」の者の肯定的傾向がみられた。

[参考文献]

- 1) 鹿屋体育大学. 鹿屋体育大学規則集. 1990.
- 2) 鹿屋体育大学. 鹿屋体育大学体育学部履修要項. 1996.
- 3) 鹿屋体育大学. 平成7年度教育実習の記録. 1996.
- 4) 鹿屋体育大学. 平成8年度を起点とする中期計画. 1996.
- 5) 筑波大学附属中学校教職教育委員会. 本校における教育実習指導の概要及び実習生と教官の意識に関する基礎資料. 1989.
- 6) 筑波大学附属中学校教職教育委員会. 本校における教育実習指導の概要及び実習生の意識に関する基礎資料. 1992.